

橋梁アセットマネジメントを学ぶため

14か国17名の橋梁技術者や行政官が長崎に集結します！

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、長崎大学^{*1}と（株）国際開発センターの協力を得て、開発途上国の行政官と橋梁技術者向けに、橋梁アセットマネジメント能力の向上を目的とした研修を長崎で実施します。本研修の現場を取材いただける場合は、取材対象日の前営業日12:00まで（3月12日の取材対象日のみ3月5日まで）に以下の問い合わせ先までご連絡ください。

橋梁の維持管理は道路に比べて面積あたりの費用が高く、高度な点検や診断、補修技術が求められます。しかしながら開発途上国においては財政状況が良好とは言えず、また技術力も高いとは言えないため、既存橋梁を適切に維持管理することが大きな課題となっています。参加者たちは橋梁の予防保全に積極的に取り組んできた長崎^{*2}で、維持管理の技術面のみならず、橋梁データの管理・計画的な予算配分を含むカリキュラムで、日本で実施されているアセットマネジメントや橋梁維持管理体制、橋梁点検・診断を実践的な講義や視察・演習を通じて学びます。

* 1: 長崎大学では「道守（みちもり）」という道路施設の点検・診断に関する技術資格を認定する、市民・建設業者を対象にした人材育成プログラムを実施。数多く存在する道路や橋を、地域の技術者や市民の協力を得て効率的かつ効果的に維持・管理するというコンセプトには、開発途上国の国々からも関心が寄せられている。

* 2: 長い海外線と 971 の離島を持つ長崎県は 2,124 橋を管理しているが、そのうち 50 年以上経過した橋は、39%の 702 橋である（2024 年現在: 架設年次不明の 338 橋を除く）。塩害、強い季節風や台風の影響を受ける長崎県は、橋が次々に老朽化していく危機感から、長崎大学や民間企業等と連携した維持管理の手法を構築した。橋が壊れたら補修をする「事後保全」から、点検作業をマニュアル化し、損傷に早く気づいて事故を予防し、寿命を延ばす「予防保全」へと維持管理のコンセプトの転換を図り、定着させることに取り組んでいる。

<研修概要>

■ 研修コース名 : 課題別研修「橋梁アセットマネジメント」

■ 全体研修期間 : 2026年2月18日～2026年3月20日

(内、長崎滞在期間: 2026年2月25日～2026年3月18日)

■ 研修参加者 : 17 名 (出身国: バングラデシュ、ベリーズ、カンボジア、コロンビア、コンゴ民主共和国、ドミニカ共和国、エジプト、ガーナ、ラオス、マーシャル諸島、セントルシア、スリランカ、ウガンダ、ザンビア)

※ 研修日程詳細、研修員リストは、取材時までにご案内いたします。研修内容やスペースにより、時間や取材可能人数等に制限が出る場合があります。

<取材対象日程>

3月2日(月) 13:00~16:30

場所:① 13:00~14:20 鏡橋(長崎市三ツ山町 バス停川平六枚板入口付近)
② 15:30~16:30 仙舞橋(長崎市式見町 長崎市役所地域センター付近)

内容:① 橋梁点検実習(コンクリート橋) ② 橋梁点検実習(鋼橋)

3月3日(火) ①9:30~10:45 ②11:00~12:00 ③13:00~14:30 ④14:45~16:30

場所:長崎大学文教キャンパス 工学部本館(予定)

内容:①橋梁点検に関する意見交換、②洗堀に関する講義 ③設計・施工に関する講義
④PCM 手法の導入とケーススタディ

3月4日(水) 14:00~15:00

場所:樺島大橋(長崎市脇岬町)

内容:樺島大橋の補修事例に関する視察

3月12日(木) 10:45~12:00 / 13:15~15:00

場所:オリエンタル白石株式会社 福岡工場(福岡県三井郡大刀洗町山隈 150)

内容:橋梁上部工製作工場(PC 桁および維持管理を考慮した構造材料の製作工場)の視察
※取材ご希望の場合はお手数ですが3月5日(木)までにご連絡ください。

■ 参考(先行案件:「橋梁維持管理」研修 実施時写真)



【本件に関する問い合わせ先】

JICA 九州 研修業務課 (担当 加藤)

TEL 093-671-6311(代表) FAX 093-671-0979

E-Mail Kato.Mieko@jica.go.jp (@は半角に置き換えて下さい)